

泉 地 域 ビ ジ ョ ン

令和3(2021)年3月

泉 自 治 区

(広島県三原市久井町泉)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1	地域ビジョン策定の目的	1
2	地域ビジョンの役割	1
3	地域ビジョン策定の取組	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	3
3	地区活動の状況	4
2章	地区の魅力・資源と問題点・課題	6
1	地区の魅力・資源	6
2	地区の問題点・課題	7
3章	地域ビジョン	8
1	地区の将来像	8
2	地区づくりの目標設定	8
3	地区づくりの体系	10
4	地区づくりの基本計画	11
5	計画の推進体制	20

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

泉地区は、美しい田園景観の広がる地区で、水田のほ場整備が完了するとともに2つの農事組合法人（以下、「農業法人」という）が設立され、農地の保全及び特徴のある農業が展開されています。また、地区の中央を南北に連絡する改良済みの市道が走っているほか、泉コミュニティホーム一带に消防屯所や駐車場が整備され、地区中心地として機能しています。しかしながら、若年層を中心に人口が流出するなど、高齢化・少子化が進行し、地区の活力が失われてきています。

こうした状況において、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区づくりに取り組むことが一段と重要になっています。こうした思いを全住民で共有するため、「いずみ」を連想させるとともに、1（いち）・2（に）・3（さん）とみんなで一緒に“一步一步”歩み続け、未来に向かって泉自治区が大きく発展すること願い、令和元（2019）年から12月3日を「泉の日」と制定しています。

また、今後の地区づくりは、国内外の新たな社会潮流である「持続可能な開発目標（SDGs）」を取り入れ、将来世代が希望を持ち続けることができる持続可能な社会の実現に取り組む必要があります。

こうしたことを踏まえ、泉自治区では、平成27（2015）年3月に策定した「泉地区活性化計画」とその後の取組を踏まえて、新たに「泉地域ビジョン」の策定に取り組みました。

2 地域ビジョンの役割

「泉地域ビジョン」は、泉自治区が中心となって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体、事業所などにおいて地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民、大学など、多様な方の幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 地域ビジョン策定の取組

泉自治区では、各種団体の代表者などで構成する「泉地域ビジョン策定会議」を開催し、「泉地域ビジョン」の策定に取り組みました。

計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、全住民を対象とした泉地域ビジョン策定ワークショップ（意見交換会）を開催しました。

注：SDGsとは、持続可能な開発目標のことで2015年の国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、2016年から2030年までの国際目標です。貧困、飢餓、ジェンダー、教育、環境、経済成長、人権など、幅広いテーマをカバーしており、2030年までの達成が目指されています。豊かさを追求しながら、地球環境問題に対処し、「誰一人取り残さないこと」が強調されています。わが国では、2016年12月の「SDGs実施指針」において、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」とのビジョンが示されました。このビジョンの具体化に向けて、民間企業、地域社会、地方自治体が大きな役割を担うことが求められています。

1章 地区の概要

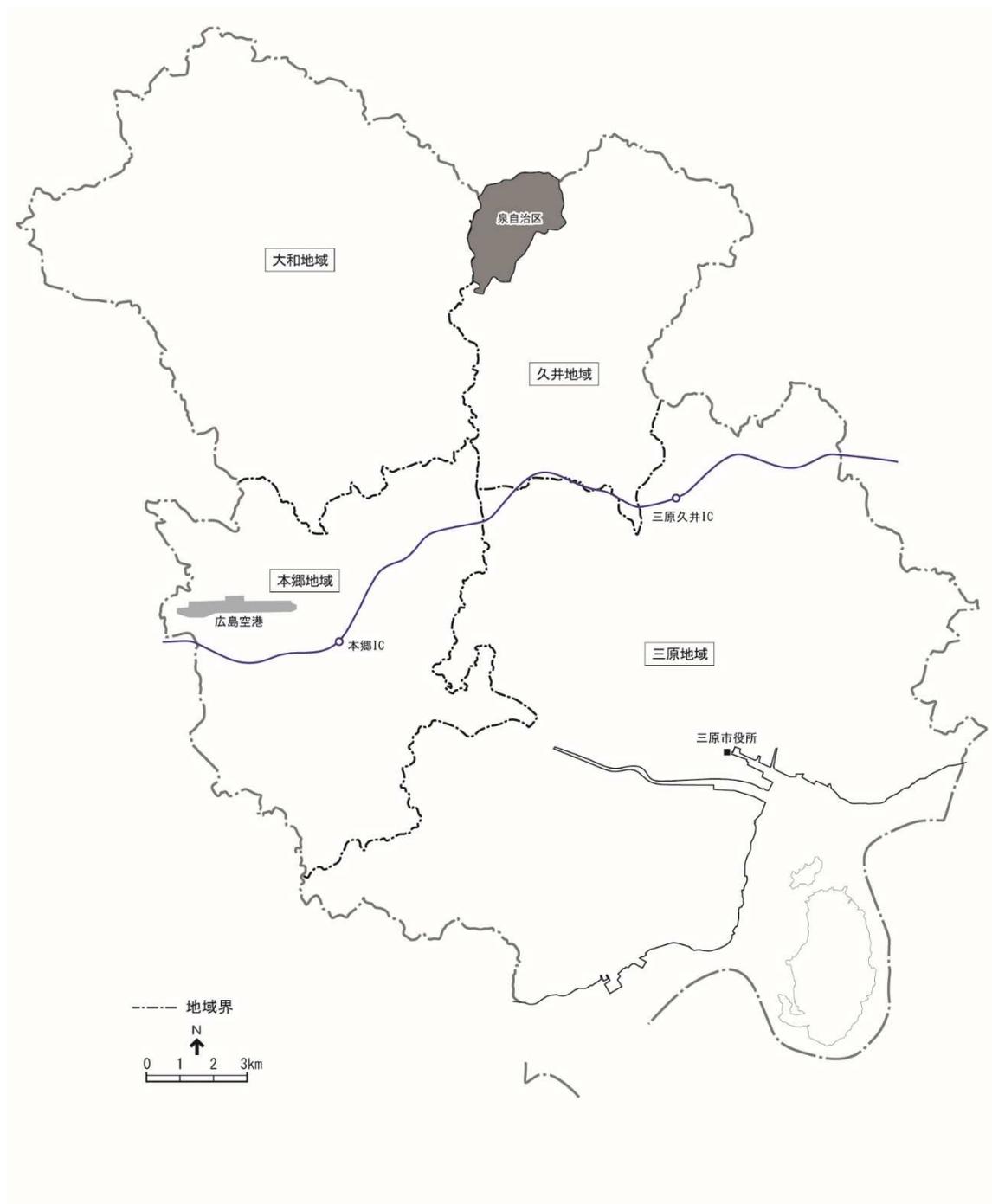
1 位置

本地区は、三原市久井地域の北西部に位置しています。

地区中心部（泉コミュニティホーム）から主要な場所まで車を利用するの所要時間は、久井支所まで約10分、三原市役所まで約40分、スーパーや病院のある世羅町中心部まで約10分です。

また、山陽自動車道三原久井インターチェンジまで約15分、広島空港まで約30分です。

図 泉地区の位置



2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を住民基本台帳で見ると、令和2(2020)年で318人になっており、過去5年間で約10%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、令和2(2020)年で0～14歳22人、15～64歳141人、65歳以上155人で、高齢化率は約49%になっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、過去5年間で各年齢層ともに減少しています。

表 人口の推移

(単位：人，%)

区 分		実 数			増減数	
		H22 (2010)年	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	H27(2015)－ H22(2010)	R 2(2020)－ H27(2015)
実 数	0～14歳	38	28	22	△10	△6
	15～64歳	216	168	141	△48	△27
	65歳以上	151	158	155	7	△3
	合 計	405	354	318	△51	△36
割 合	0～14歳	9.4	7.9	6.9	－	－
	15～64歳	53.3	47.5	44.3	－	－
	65歳以上	37.3	44.6	48.8	－	－

注：人口は、住民基本台帳（各年3月末現在）。H22(2010)年人口は外国人登録人口を含みません。

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を住民基本台帳で見ると、令和2(2020)年で140世帯になっており、過去5年間で7世帯減少しています。

1世帯当たり世帯人員は令和2(2020)年で2.27人になっており、過去5年間で0.14人減少しています。

表 世帯数等の推移

区 分	実 数			増減数	
	H22 (2010)年	H27 (2015)年	R 2 (2020)年	H27(2015)－ H22(2010)	R 2(2020)－ H27(2015)
世帯数（世帯）	147	147	140	－	△7
世帯人員（人）	2.76	2.41	2.27	△0.35	△0.14

注：世帯数は、住民基本台帳（各年3月末現在）。H22(2010)年世帯数は外国人登録世帯数を含みません。

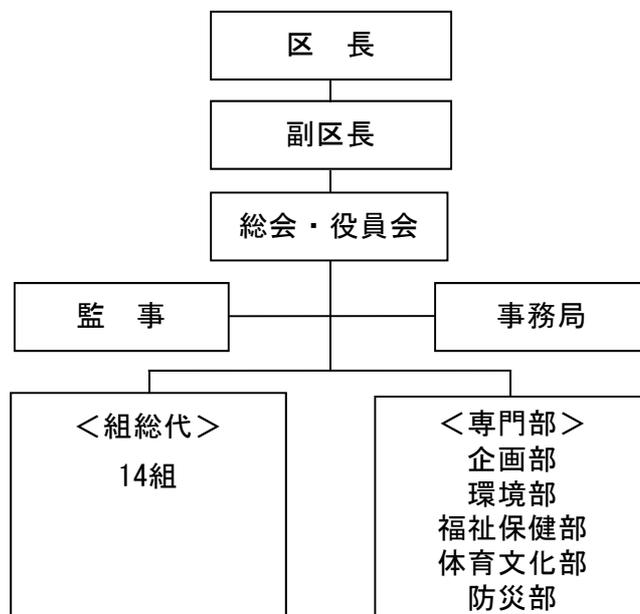
3 地区活動の状況

(1) 自治区などの団体

ア 泉自治区

泉自治区は、1組～13組及び13組イの14組で構成されており、組総代を通じて情報伝達を行っています。また、専門部を設置して各種事業に取り組んでいます。

図 泉自治区の組織



イ その他の団体

泉自治区以外の主な団体とその活動状況は次のとおりです。

表 その他団体の活動状況

団体名	主な活動
泉子供会	・泉地区の子どもと保護者を対象としたイベントの開催，交流活動等
泉勇志会	・夏祭り，秋祭り等のイベントへの参加
泉老人会	・研修会（健康づくり，交通指導等）の開催，グラウンド・ゴルフ，親睦活動等
羽和泉地区社会福祉協議会	・ニコニコ会食，敬老会の開催，年末お餅の配布等
民生委員・児童委員	・高齢者・障害者・児童・母子世帯等の調査・実態把握，相談支援や各種行事への参加協力や自主的な地域福祉活動等
ふれあい・いききサロン運営グループ	・楽々貯筋クラブ（泉地区全体），軽い体操で筋力の維持 ・あじさい会，おたおサロン，たんぼぼ会，つくし会の4団体があり，小グループでのサロン活動
自主防災会	・自主防災対策の協議，防災意識啓発，防災訓練の実施，救急法講習等
地区消防団	・出初式，消防訓練の実施，火災予防広報活動等
公衆衛生推進協議会	・環境保全，環境学習，健康づくり，環境・健康募金活動等
農事組合法人	・いずみ，清流の郷・泉の2法人 ・農地の保全・管理，米・野菜等の生産・販売，環境保全活動，農業体験の提供等

(2) 主な地区行事

本地区の主な行事は、次のとおりです。

表 地区の年間行事の状況

月	行事・祭り	内 容
周年	高齢者見守りサポート推進事業	・一人暮らし高齢者の見守り活動
周年	高齢者サロン活動	・合同サロンによる楽々貯筋クラブ活動
6月	環境美化活動	・市道等の一斉草刈り
7月	祇園祭り	・久井稻生神社及び泉八幡神社で獅子舞・祇園踊りの奉納
8月	泉夏まつり	・盆踊り，ステージイベント，夜店，ビンゴゲーム等
9月	泉敬老会	・敬老のお祝い（ステージイベント，会食等）
10月	環境美化活動	・コミュニティホーム，八幡神社周辺の掃除，草刈り
11月	秋祭り	・神楽，舞踊，銭太鼓の奉納，夜店等
	泉自治区防災訓練	・防災意識の醸成，救急救命講習等
	農業体験交流会	・地区内外の子どもと保護者を対象とした農業体験交流会
12月	泉の日	・12月3日を「泉の日」と制定，全住民で泉の維持・発展を願うとともに住民が地区づくりを自分事として意識する日
	泉八幡神社のしめ縄づくり	・本殿・神楽殿のしめ縄，門松づくり
1月	とんど祭り	・しめ縄，古いお守り，神札等を火でお焚きあげ，無病息災を願う伝統行事

(3) これまでの取組

泉自治区では、「泉地区活性化計画」に基づいて平成27(2015)～令和元(2019)年度の5年間に次のような事業に取り組みました。

表 「泉地区活性化計画」に基づいて取り組んできたこと

区 分	内 容
高齢者等への福祉	・高齢者見守り事業の実施 ・ふれあい・いきいき合同サロン（楽々貯筋クラブ），小グループサロンの支援 ・敬老会の開催
子ども育成	・子ども遊具の購入，子ども・保護者交流会，親子農業体験の開催 ・民話朗読会の開催
歴史文化の継承・地区行事	・踊りの練習と祇園祭りへの参加，地元神社への奉納 ・夏祭り，秋祭り，とんど祭りの開催 ・冊子（泉地区活性化の歩み），DVD（人も自然も輝く泉）の作成・配布
環境美化活動	・清掃活動（草刈り，神社清掃等） ・メダカの里花壇の整備
防災・減災	・自主防災訓練の実施
情報発信	・泉自治区便りの発行 ・ホームページ，フェイスブックの運営
その他	・令和元（2019）年から12月3日を「泉の日」と制定 ・泉コミュニティホーム多目的広場の整備

2章 地区の魅力・資源と問題点・課題

1 地区の魅力・資源

泉地区の魅力・資源について、「泉地区活性化計画」の内容に泉地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の魅力・資源

区 分	地区の魅力・資源
地区全体	<ul style="list-style-type: none">・自然（田，山，朝陽，夕陽），美しい山並み・田舎ならではの風景・山並み，ほ場整備済みの水田と改良済みの市道等で構成される美しい田園景観・水良し・土地良し・気候良し，農業に適した自然豊かな泉の大地
自然資源	<ul style="list-style-type: none">・天然水，空気がおいしい・きれいな夜空・泉川・ホタル，ヒョウモンモドキ・カブトムシ等の昆虫・眺望の良い場所（柳川池の土手，八幡神社広場等）
歴史文化資源	<ul style="list-style-type: none">・八幡神社，古墳・郷土料理・古民家
産業資源	<ul style="list-style-type: none">・ほ場整備済みの水田・農業の担い手として，2つの農業法人がある・米，野菜・ほ場整備地区内のビオトープ（環境保全型水路）・農家等で手づくりされている味噌等の加工品
近隣関係・生活環境	<ul style="list-style-type: none">・人と人のつながりが良好・リタイア後のUターン者がいる・子育てに適した環境・泉コミュニティホーム・八幡神社の広場・三原市久井憩いの広場・改良済みの市道・空き家

2 地区の問題点・課題

泉地区の問題点・課題について、「泉地区活性化計画」の内容に泉地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）での意見を加えて整理すると、次のとおりです。

表 地区の問題点・課題

区 分	地区の問題点・課題
高齢者等の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行 ・地区での人間関係等の難しさ、相談できる人がいない ・一人暮らし高齢者等の日常生活の不安（引きこもりがち、情報が伝わらない等） ・ゴミ出し（ゴミの分別及び収集日の忘れ、収集場所までの運搬） ・通院、買い物等の外出が不便 ・久井ふれあいバスが不便（回数、運行コース等） ・自家用車が運転できなくなった時の生活が不安 ・認知症、病気等で引きこもりがちな高齢者等への対応
若者の定住・子育て	<p><若者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の減少（20～40代） ・町及び周辺に若者に魅力ある職場の不足 ・子どもの教育への不安（高校がない） <p><子ども></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない、地区内の子ども同士の交流が困難 ・保育所、小学校がなく、大人と子どもが交流する機会の減少 ・子どもの遊び場の不足 ・中学、高校が遠距離、習い事の場所がない
農林地・農林業	<p><農業・農地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ等による有害鳥獣被害の拡大 ・高齢化に伴う農作業の担い手の不足 ・田の草刈りの困難化 ・農事組合法人の担い手の高齢化、将来の担い手の不安 ・地区の特産品不足 <p><林業・林地></p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹が繁る等の山林の荒廃の進行と山林管理の担い手不足
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や商店が遠距離 ・空き家の増加 ・公共交通機関が不便
地区活動・近隣関係	<p><近隣関係・地区内交流></p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所付き合いの減少、地区に対する関心の希薄化 ・小学校が統合されたことで子どもの見守りがなくなり、子どもと高齢者の交流が減少 <p><行事・イベント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治区活動への参加意欲の低下、家庭優先の生活スタイル ・人口の減少と高齢化の進行に伴い、行事のスタッフ・参加者の減少 ・祭りへ若者が参加しない、若者との交流不足 ・子どもイベントへの参加が少ない（スポーツ活動等の行事で忙しい） <p><自治区の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人がいくつも役を持ち忙しい ・元気な高齢者の参加促進 <p><歴史文化の継承></p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋祭りの幟の建て方、八幡神社のしめ縄づくり、門松づくり、とんどの作り方（巻き方）等の継承の不安
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・泉コミュニティホームが利用しにくい ・県道、市道、林道等の側溝に落ち葉等が詰まっている ・夜暗い

3章 地域ビジョン

1 地区の将来像

本計画では、「泉地区活性化計画」策定時に掲げた地区の将来像を踏襲し、次のとおりとします。

<地区の将来像>

誰もが郷土を愛し、いきいきと支え合いながら暮らす「泉」

2 地区づくりの目標設定

(1) 目標設定

地区の将来像の実現に向け、次のとおり目標を設定します。

ア 自治区加入率

現状値	めざす方向	目標値	備考
93% (令和2年度)	増加	100% (令和7年度)	・現状値は自治区調べ

イ 新規事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	増加	5事業 (令和3～7年度)	

ウ 他団体との連携事業数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	増加	10事業 (令和3～7年度)	

エ 地区への移住者数

現状値	めざす方向	目標値	備考
— (令和2年度)	移住促進	35人 (令和3～7年度)	・毎年2世帯，5人の移住

オ 地区出身者との交流者数

現状値	めざす方向	目標値	備考
100人 (令和2年度)	増加	120人 (令和7年度)	

カ 地区外からの来訪客数

現状値	めざす方向	目標値	備考
200人 (令和2年度)	増加	300人 (令和7年度)	

(2) 人口の将来見通し

平成27(2015)年から令和2(2020)年の人口(住民基本台帳)の推移が継続した場合の人口を推計すると、地域ビジョン策定年次の令和2(2020)年から10年後の令和12(2030)年には221人になり、令和2(2020)年と比較して97人減少するものと見込まれます。年齢3区分別人口をみると、各年齢層ともに減少し、高齢化率は約54%になるものと見込まれます。

こうした状況に対して、総人口の減少はやむを得ないものの0～14歳人口が増加に転じることを目標として、本計画で掲げる「若者・子どもが快適に暮らせる地区づくり」をはじめとする各種取組を推進します。その結果、毎年20歳代前半の夫婦及び30歳代前半の夫婦(子ども1人)それぞれ1組が、過去5年間の動向より増加するものとし、令和12(2030)年の総人口を約280人と設定します。

注：人口推計は、島根県中山間地域研究センターの人口予測プログラムを用いました。

図 目標人口

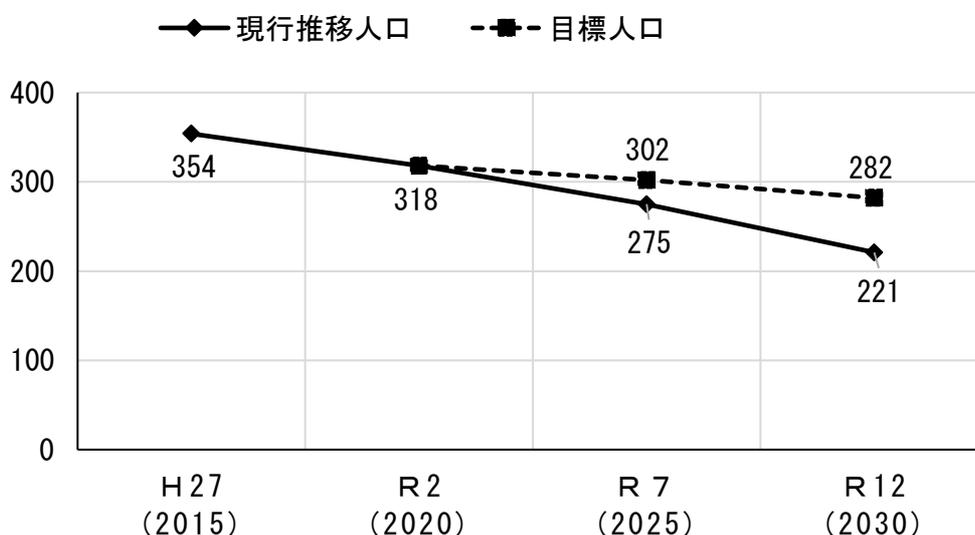


表 目標人口

区分	令和2(2020)年	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和12(2030)年 －令和2(2020)年
0～14歳	22	21	23	1
15～64歳	141	140	140	△1
65歳以上	155	141	119	△36
合計	318	302	282	36

注-1：過去5年間の推移と比較して、毎年20歳代前半の夫婦、30歳代前半の夫婦(子ども1人)がそれぞれ1組増加するものとした。

-2：出生率は、H27.4～R2.3までに出生した人口(0～4歳)をR2.3の20～39歳の女性人口で除した値を参考に男性0.10、女性0.10と設定。

-3：令和2(2020)年は3月31日現在の人口。

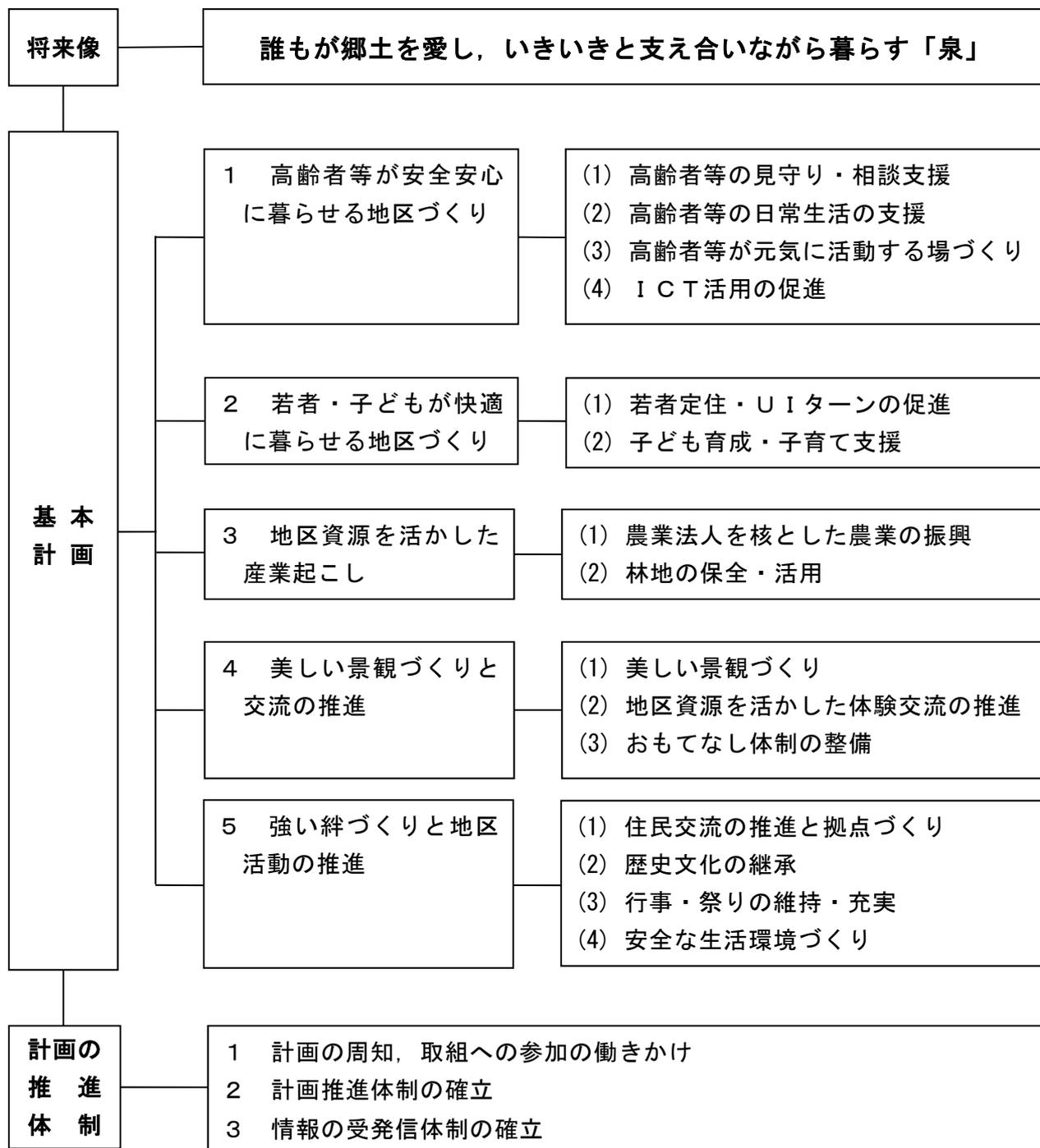
参考 現行推移の場合の将来人口

区分	令和2(2020)年	令和7(2025)年	令和12(2030)年	令和12(2030)年 －令和2(2020)年
0～14歳	22	13	8	△14
15～64歳	141	121	94	△47
65歳以上	155	141	119	△36
合計	318	275	221	△97

3 地区づくりの体系

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

図 地区づくりの体系



4 地区づくりの基本計画

地区の将来像を踏まえて、地区づくりの基本計画として5つの柱と主な取組を掲げます。

なお、取組事項は「泉地区活性化計画」の内容を踏まえるとともに、泉地域ビジョン策定会議及びワークショップ（意見交換会）などにおける意見のうち、泉自治区をはじめとする各種団体及び住民が取組主体になる事項をとりまとめました。

1 高齢者等が安全安心に暮らせる地区づくり

(1) 高齢者等の見守り・相談支援

- ・一人暮らし高齢者などに対して隣近所で協力しての見守り，相談支援
- ・近隣地区の見守り活動を参考にしつつ，自治区と地区社会福祉協議会，見守りサポーター，民生委員・児童委員の連携による定期的な訪問の実施
- ・休日の昼に弁当の配食と見守り訪問の実施

(2) 高齢者等の日常生活の支援

ア 外出の支援

- ・ふれあいバスに代わる，予約乗合タクシー（ドアツードア）の運行（令和3年10月運行予定）の利用促進
- ・路線バス（徳良線）の増便の働きかけ

イ 買い物の支援・配食の維持

- ・高齢者等の依頼に応じた食料品，弁当などの購入，配達をする御用聞きサービスの検討
- ・地区ニーズを踏まえた移動スーパー（とくし丸等）運行の利用促進
- ・久井弁当の配食サービスの維持

ウ ゴミ出しの支援

- ・ゴミ出しが難しくなっている高齢者等に対して，近隣住民の協力によるゴミ出しの支援
- ・ゴミ分別表の配布，高齢者が集まる会合におけるゴミ分別の講習，資源ゴミ回収などの支援

エ おたすけ隊の設置

- ・一人暮らし高齢者等のちょっとした困りごとを支援する組織づくり

(3) 高齢者等が元気に活動する場づくり

ア 高齢者サロンの充実

- ・泉合同サロン（ふれあい貯筋教室）の増回の検討（月1回から2回へ）
- ・3B体操，卓球クラブなどの活動の維持，活動内容の一層の充実
- ・サロン活動の一環として子どもとの交流を行い，昔遊び，伝統芸能などの伝承
- ・活動の周知の強化（引きこもりがちな高齢者等への参加の働きかけ）
- ・泉コミュニティホームで常設の高齢者サロンの開設の検討

イ 高齢者等の生きがい活動の推進

- ・ 高齢者等の健康づくり，生涯学習・スポーツ活動の場の整備，活動の一層の充実
- ・ 高齢者等の経験・知識を活用した特産品，郷土料理づくりの推進
- ・ 高齢者等が収入を得られる場づくり

(4) ICT活用の促進

- ・ 高齢者等に対するパソコン・スマホの普及，勉強会の開催
- ・ 高齢者等が買い物，宅配，金融機関，タクシーなどを利用する際のスマホ活用の支援
- ・ オンラインによる見守り，診察，情報提供などへの活用

2 若者・子どもが快適に暮らせる地区づくり

(1) 若者定住・U I ターンの促進

ア 若者定住

- ・子ども・若者に保護者から泉への居住の働きかけ
- ・若者が集まるコミュニティスペースづくり
- ・行政と連携して、若者定住を促進する支援方策の強化

イ 地区出身者との交流

- ・地区のホームページ、フェイスブックなどで、行事・祭りなどの情報発信を行い、地区出身者の定期的な帰省やUターンの促進

ウ U I ターン促進

- ・泉の魅力ある暮らし（緑豊かで自家用車があれば便利な生活、テレワーク環境、美しい農村景観等）のホームページ、フェイスブックなどで発信
- ・移住希望者への住宅、生活ルールなどを紹介するとともに、移住者に対して相談支援を行う相談員の配置
- ・移住者が地区の生活に馴染めるように、移住者相互及び移住者と地区住民の交流会の開催
- ・U I ターン希望者が短期滞在できるおためし住宅の整備と滞在中に地区の魅力のPR（景色、水、米等の農産物、生活ルール等の紹介）

エ 空き家の活用

- ・空き家調査の実施、空き家のデータ化（グーグルマップの活用）
- ・空き家活用ワークショップの開催
- ・空き家相談に対応する空き家コンシェルジュ（案内人）の配置
- ・空き家改修に芸術的要素を加えた魅力ある物件づくり
（芸術家に一定期間住んでもらい、空き家活用、デザインに対する助言を受ける）
- ・久井地域の建築業者、不動産業者との連携した空き家の賃貸及び売買、修繕の支援
- ・空き家所有者に対する空き家バンク活用の支援
- ・空き家を活用して移住する人に対する各種支援制度の周知

オ U I ターン情報の発信

- ・泉地区及び久井地域などの魅力、住宅、仕事などの移住情報をホームページ、フェイスブックなどを通じて広域的に発信

(2) 子ども育成・子育て支援

- ・子どもが「泉が好き！」と言えるふるさと体験の提供
- ・子どもへ地区の自然，産業，歴史文化などを伝えることによる郷土愛の育成
(川遊び，昆虫採集，竹とんぼ，竹馬，お手玉，農林業等)
- ・地区の子どもと保護者が集い，気軽に遊ぶことができる場の維持・充実
(泉コミュニティホーム，八幡神社広場，三原市久井憩いの広場等)
- ・子どもの学習を支援する場づくり
- ・保護者と子どもに魅力あるイベントづくり（子どもが主役になれる場の確保）

3 地区資源を活かした産業起こし

(1) 農業法人を核とした農業の振興

ア 担い手の確保、育成と農地の保全

- ・農事組合法人による農地保全体制の維持・充実
- ・農事組合法人へ若い正職員の雇用を働きかけ、運営体制の強化
- ・元気な高齢者を農作業に活用する仕組みづくり
- ・地区の若者及び都市住民に農業研修の場の提供による農業の担い手の確保、育成
- ・若者向け農業イベントの開催による農業への関心の醸成
- ・農業に関心のある大学生の支援（農繁期）を受ける体制づくり
- ・遊休農地を活用した貸農園づくり、農地オーナー制度の導入

イ 有害鳥獣対策の強化

- ・地区を挙げての有害鳥獣対策チームの設置
（農事組合法人を中心として住民も参加）
- ・共同防護柵の設置、山裾の草刈り等の推進
- ・地区外からの応援の働きかけ（草刈り等の人材、資金等）
- ・有害鳥獣対策の広域的な連携体制の確立

ウ 特産品の開発と販売の促進

- ・米、赤しそ、大根、さといも、にんじん、かぼちゃ、大豆などの一層のブランド化の推進
- ・市内の道の駅への出荷、インターネット通販、農産物直売所の設置・運営など、農産物の多様な販売ルートの開拓
- ・千切り大根、こんにゃく、ほしがき、シソジュース、みそ、豆腐などの農産物加工品を製造する手作り工房の設立・運営
- ・特徴のある酒米を使用した酒、カボチャ焼酎など醸造元と連携した特産品づくりと三原市ふるさと納税返礼品登録によるPRの強化

エ 持続可能な農地保全・農業振興体制づくり

- ・担い手の減少が見込まれる中で、将来を見据えた泉地区の地区環境及び農地の保全、農業振興のあり方の検討（農事組合法人の運営体制の維持・強化、担い手の確保、農地保全、特産品づくり、多様な販売ルートの開拓、泉自治区と連携した地区づくり等）

(2) 林地の保全・活用

- ・拡大している竹林の伐採と竹炭づくり
- ・竹に関わるイベント（竹灯ろう祭り等）の企画・開催
- ・間伐材の活用に向けた地区を挙げて薪ストーブの導入の検討
- ・山林整備による山菜の里づくり
- ・山林を活用した野外レクリエーション施設（桜等の植栽、フィールドアスレチック等の遊具、ベンチ、トイレ等）の整備の検討
- ・山林を舞台としたイベント開催と山林管理への関心の醸成

4 美しい景観づくりと交流の推進

(1) 美しい景観づくり

ア 地区環境の保全の推進

- ・地区を挙げて行っている道路，河川，八幡神社，泉コミュニティホームなどの草刈り，清掃などの維持・充実
- ・メダカの里の管理の維持・充実
- ・草刈りの省力化の検討（草刈り面積の縮小，草刈り機の導入）
- ・ヒョウモンモドキの保護とその周辺環境整備

イ 美しい景観づくり

- ・八幡神社及び泉コミュニティ広場，道路，河川周辺への花木の植栽
- ・農地の畦畔への芝桜の植栽，畔焼きアート（例：パンダ等）づくり
- ・遊休農地へのシンボルツリー（ジューンベリー）の植樹による特徴のある景観づくり
 - ・4～5月開花（白い花），6月果実の収穫，秋の紅葉，美しい樹形（ライトアップ）などを活用して四季様々なイベントの開催
 - ・果実は生食またはジャム加工
- ・泉を印象付ける八幡神社のライトアップの実施

(2) 地区資源を活かした体験交流の推進

ア 自然資源の活用

- ・カワナナの養殖，魚の復活，キャンプ場の整備，ホタル祭りの開催などによるホタルの里づくり
- ・昆虫（カブトムシ，クワガタ）採集イベントの開催
- ・わらび，ゼンマイ，つくし，タラの芽等の山菜採り体験の提供
- ・キャンプの受け入れ（ミニキャンプファイアで火遊び体験）

イ 農業資源の活用

- ・上ビオトープ及び下ビオトープ（環境保全型水路）を，水遊びできる場とするとともに，メダカ，ホタル，トンボなどの観察の場として整備
- ・遊休農地を活用した農業体験の提供（サツマイモの植付け，収穫等）
- ・味噌づくりなどの農産物加工体験の提供
- ・自治区と農事組合法人が連携した農業体験受け入れ体制の整備（農業体験事業の規模拡大，有料化の検討）

ウ 地区の行事・祭りの活用

- ・とんど祭り，祇園祭，夏まつり，秋祭り，健康づくりウォーキングなどの地区の行事・祭りの広域的なPRと地区外からの来訪客の誘客の促進

(3) おもてなし体制の整備

ア 魅力的な体験コースづくり

- ・ 地区資源を活かして、来訪客層、季節に応じた様々な体験交流の場の提供
- ・ 昆虫、川魚の観察などを組み合わせた自然探勝、民芸品・料理の手づくり、田園ウォーキングなどを組み合わせた泉の歴史文化・景観体験などの様々なコースづくり
- ・ 泉地区だけでなく久井稻生神社、宇根山一带など他地区と連携した広域的なコースづくり
- ・ 来訪客に郷土料理の提供や特産品を販売できる体制づくり

イ 宿泊施設の整備

- ・ 民泊受け入れ、古民家を活用した宿泊交流施設の整備
- ・ 空き家を活用した農地付き貸別荘の設置の検討

ウ 観光・交流情報の広域的な発信

- ・ インターネット、フェイスブックなどを活用した泉地区の観光交流情報発信の強化
- ・ 広島大学の留学生との交流を通じて、泉地区を国際的にPR

5 強い絆づくりと地区活動の推進

(1) 住民交流の推進と拠点づくり

- ・高齢者による郷土料理・農産物加工品などの講習会の開催による次世代への継承
- ・子ども、若者、高齢者の世代間交流の推進（イベント開催等）
- ・後継者（若者）との交流機会の充実
- ・飲み会、カラオケ大会などの開催による住民相互の絆の強化

(2) 歴史文化の継承

- ・地区に残る伝統行事、昔話（民話）の発掘
- ・高齢者の経験・知識の聞き取りによる歴史文化の継承
- ・祇園祭りの踊り子の確保と踊りの継承
- ・秋祭りの幟の建て方、八幡神社のしめ縄づくり、門松づくり、とんどの作り方（巻き方）などの講習会の開催による伝統技術の継承
- ・地区行事や伝統芸能の撮影、保存を行うとともに様々な機会を通じての上映会の開催

(3) 行事・祭りの維持・充実

ア スタッフ・参加者の確保

- ・行事・祭りへの参加者を増やす対策の検討
- ・地区外からの担い手の確保（地区出身者，大学生，都市住民）
- ・子ども，若者に魅力あるイベントづくりによる誘客の推進
- ・ワクワクするイベントの定期開催

イ 祭りの維持・充実

- ・住民相互，住民と地区出身者との交流の場となる祭りの維持・充実（とんど祭り，夏祭り（盆踊り），秋祭り等）
- ・泉地区全域を対象としたとんど祭り開催の検討

ウ スポーツ活動の維持・充実

- ・ウォーキング・サイクリングイベントの開催
- ・季節ごとのウォーキングコースづくりとウォーキングを通じての交流の推進
- ・グラウンド・ゴルフ，ビーチボールバレーなどのスポーツイベントの維持・充実
- ・地区運動会の復活の検討

(4) 安全な生活環境づくり

ア 自主防災活動の推進

- ・ 各種災害に対する知識の普及・啓発による住民の防災意識の高揚
- ・ ハザードマップによる危険個所の確認，地区特有の危険個所の調査の実施
- ・ 各種災害時に，情報の収集・伝達，水防・消火，避難，救出・救護活動などが迅速かつ的確に行えるように，定期的な訓練の実施
- ・ 自主防災組織の計画づくり
- ・ 非常持ち出し袋の準備，救急法及びハザードマップの学習，避難訓練に関する情報提供などによる意識啓発と学習の場及び避難訓練などへの参加の促進
- ・ 告知放送回数 の 充実

イ 夜間の安全の確保

- ・ 外灯の増設
- ・ 太陽光発電の外灯の設置による経費の軽減

5 計画の推進体制

(1) 計画の周知，取組への参加の働きかけ

各種団体の会合などで「泉地域ビジョン」の周知を行い，住民一人ひとりの地区づくりへの当事者意識を醸成するとともに，地区づくり活動への参加を働きかけます。

(2) 計画推進体制の確立

「泉地域ビジョン」を実行する体制を次のように確立し，各種事業の実施に取り組みます。

ア 幅広い参加と持続的に活動できる体制の確立

- ・「泉地域ビジョン」の実行にあたっては，泉自治区と農事組合法人が中核になるとともに，泉地区の各種団体と連携して取り組むこととし，それぞれの団体へ幅広い人材の参加を働きかけます。
- ・泉自治区や農事組合法人へのなどへ女性，若者の参加を促進するため，同世代の横の結びつき，若い世代の多い消防団，保護者会及びPTAなどを活用した参加の働きかけ，会議の開催曜日・時刻への配慮などによる参加しやすい環境づくりに取り組みます。
- ・地区の人材，事業所などの得意分野を整理したリストを作成し，地区づくりに適材適所で協力してもらう体制を確立します。
- ・講習会・研修会などへの参加，講演会の開催，先進地視察の実施などによる人材育成に取り組みます。

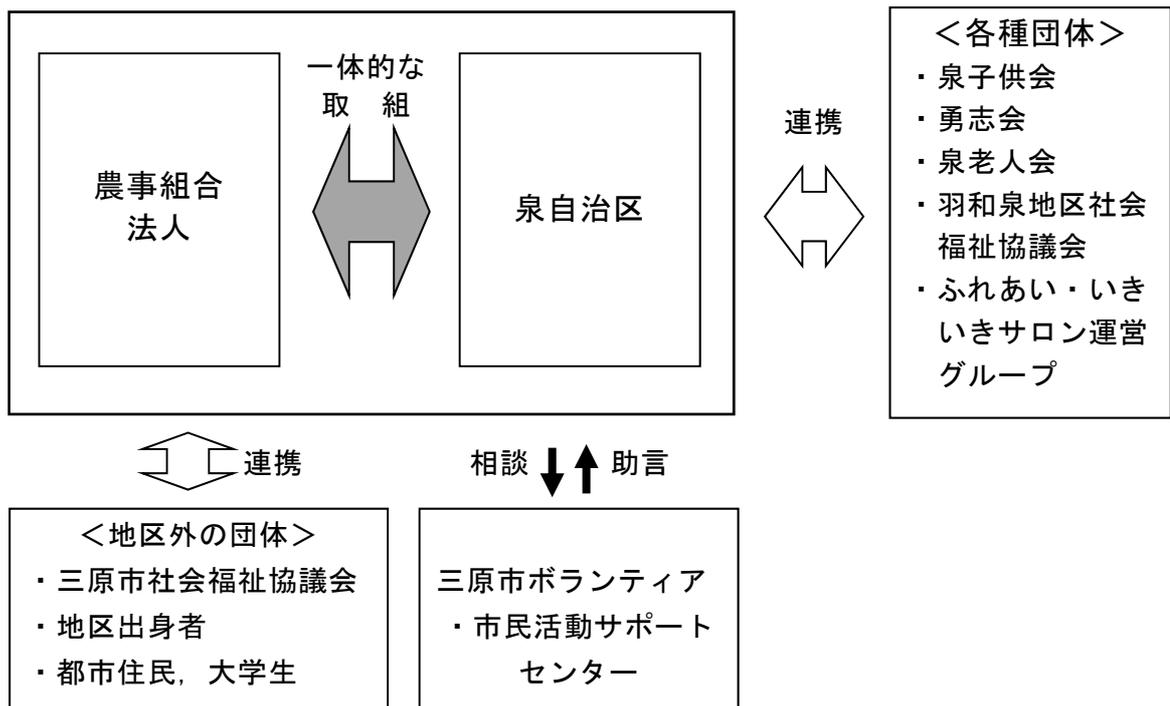
イ 地区外の個人，団体との連携の強化

- ・三原市ボランティア・市民活動サポートセンターと連携し，まちづくりへの助言，専門的人材の紹介・派遣などの支援を受け，地区づくり活動の活性化を図ります。
- ・三原市中山間地域の共通課題（高齢者の生活支援，UIターン促進，観光・交流，情報発信等）へ効果的に取り組むため，他地区との連携を強化します。
- ・地区外の団体との連携を強化して地区づくりへの応援を受けるとともに，地区出身者，都市住民，大学生などに対して，地区行事への参加や地区づくりへの応援を働きかけます。

ウ 活動財源の確保

- ・活動資金を確保するため，収益事業の導入を積極的に検討するほか，国，県，市などの支援制度の活用を図ります。
- ・特産品開発，観光・交流事業をはじめとする収益事業については，農事組合法人を母体として事業の実施に取り組みます。

図 泉地域ビジョンの実行体制



(3) 情報の受発信体制の確立

ア 地区内への情報の受発信

- ・地区情報が住民一人ひとりに周知徹底できるように、回覧板を通じて情報周知の徹底、泉自治区掲示板及び泉自治区だよりの充実のほか、ケーブルテレビの告知放送の活用に取り組めます。
- ・若者世帯に対しては、泉地区のホームページ、フェイスブック、SNSを活用した情報の受発信に取り組めます。

イ 地区外への情報の受発信

- ・今後も泉地区のホームページ、フェイスブックなどを活用し、地区出身者、都市住民、大学生などに対して地区の魅力や活動（年間行事・祭りカレンダー）、空き家情報などを発信の充実を図ります。
- ・各種団体、個人のホームページ、フェイスブック、SNSなどを通じて、地区外の知人・友人などへの情報発信を働きかけます。

ウ 人材の確保・育成

- ・泉地区のホームページ、フェイスブックなどを管理、活用できる人材を確保・育成し、タイムリーな情報の受発信体制を強化します。